

## 『定期テストの結果!』

富原、美原、遠矢、青陵、鶴居の定期テストが終わった。結果の判っている学年平均点は、富原1年309点で前回よりマイナス20、2年生277点でマイナス32、3年生は292点でマイナス15。共栄2年は236点でマイナス43。青陵3年は286点でプラス3。平均が出ていない学校も生徒の点を見ると下がっていることが予想される。

このような状態の中で、富原中1年の谷口さんが35点アップで学年1位だった。8、9日の1000分特講座にも参加し、高い目標を持って臨んだ結果だ。テストが終わっても気を抜かずこつこつ取り組むことが次に繋がる。これから各学年、学習の自身が濃くなっていく。2年生はしっかりと家庭学習で復習をすることが必要だ。特に中3生は、学力B、C、学力コンクール、定期テストと続く。入試まで5ヶ月となった。



9/1(土) Aテスト対策 12:30 ~ 17:00 4時間30分勉強しても帰りは元気! 9/15 八戸港の朝市 NHKも取材に。



毎週日曜日開催で400店が並ぶ 花巻の宮澤賢治記念館 レストランの看板が懐かしかった。(以前英語の教科書に)

## 『思いを伝えるアナログの力!』

9月15日から18日まで再び東北の被災地へ行ってきた。5月の連休から4ヶ月経っているが、被災地の風景は何も変わっていない。メディアの報道では時折り復興が進んでいるかのようには思わせる場面が伝えられる。東北の人たちの我慢強さと、東北の人たちだけの「絆」でふるさとの再生に向かって頑張っているように思う。

今回、卒業生(31才)の奥さんのお母さんが突然倒れ、千羽鶴を折ることになり、仲間の卒業生や塾生にも協力してもらい4日で千羽鶴が出来上がった。千羽鶴をつくるのは初めてのことであったが、みんなが一つの思いで、気持ちを込めて一羽ずつ折っていった。出来上がったときアナログの力のすごさと大切さをつくづく感じた。メールで鶴の写真を送っても千羽鶴にはならない。デジタルでは決してできないことである。



GWから4ヶ月 被災地はほとんど変わりがなく復興が進んでいるとは思えない。「僕らは負けない」の文字に感動する。



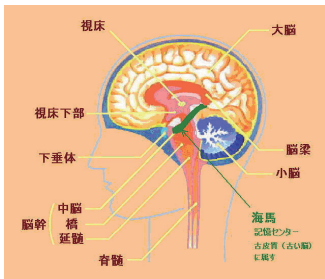
9/19 折った鶴を色分け 9/21 PM8時頃から卒業生や大本先生の奥さんにも手伝ってもらい12時遂に完成

情報化やデジタル化、そしてグローバル化、経済発展によって失ったものは多い。特に人と人との関係である。

当然、東北の被災地の復興もデジタルでは出来ない。すでに一年半が過ぎていく。日本中の各自治体が、そして一人一人が、東北の復興のためにできることをしなければ。いつかはわが身である。それが「絆」だろう。携帯やスマホは何もしてくれない。それに費やす時間やお金を自分のために、人のために使う事が大事だ。

## 『寝る子は育つ』はマジだった

宮城県内の健康な5~18歳の子ども二九〇人について、脳で記憶や学習を担う「海馬」と呼ばれる部分の体積を測定したところ、平日の睡眠時間が5、6時間の子より、8、9時間の子の方が大きい傾向があることが分かった。東北大加齢医学研究所の瀧靖之教授らが17日、名古屋市内で日本神経科学大会開幕に先立ち発表した。



海馬は大人になっても脳神経細胞が新たに生み出されるが、うつ病や心的外傷後ストレス障害(PTSD)の患者、高齢のアルツハイマー病患者では縮小している場合がある。瀧教授は「若いうちに睡眠をしっかりと取る生活習慣をつけ、海馬を大きくしておけば、発症リスクを下げられる可能性がある」と話している。一方、東日本大震災後、被災地ではストレスで海馬の成長に影響が出た子どもがいたとみられるが、「今後1日8時間程度睡眠れば回復するのではないか」としている。

つまり小さい頃から睡眠時間をしっかりとれば、精神障害、脳の障害にはなり辛いという結果。子供は1日8~9時間の睡眠を心がける。21時↓6時あたりを目安に。

気をつけたいのが、規則正しい生活をしないと意味が無いと思う。脳の萎縮は酒など後天的影響もあるので気をつけたい。

## 『数学検定合格者』

8月25日実施の数学検定の合格者です。  
3級 斗内凌平(鶴居中三)  
4級 河村萌華(鳥取西中三) 工藤伶奈(美原中三) 栗山留佳(富原中三)  
8級 須貝 光(附属小四)  
※一次または二次のみの合格者は11月にも数学検定を予定しています。

## 『第二回漢字検定』

11月2日(金) 8時から第二回漢字検定を実施します。いつも通り1ヶ月位前からそれぞれの受験級に応じた特訓を行います。特に、中3生は内申書に書くことのできる最後のチャンスです。必ず合格するように今からしっかりと取り組むことです。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	
			休塾							休塾							休塾			★学力Bテスト			休塾	休塾	休塾	三年生学力Bテスト対策		鳥取定期テスト		鳥取西定期テスト	
<p style="text-align: center;">■ 10月の予定 ■</p>																															

携帯電話の  
教習持込禁止  
携帯電話の持込は禁  
止。連絡は塾の電話  
を使用して下さい。

## ■ 手を動かして文字を書くことの大切さ ■

\*\*\*\*\*

きょう21日の朝刊を手にとって「ほーら、やっぱり！」と思わず叫んでしまった。1面トップにデカデカと「『漢字書く力衰えた』66% メール普及10年で急増」とあるではないか。記事は、20日に文化庁が発表した「国語に関する世論調査」についてのもの。調査によれば、パソコンや携帯電話のメール機能を使うことによって、「漢字を正確に書く力が衰えた」と感じている人が、10年前より25.2ポイントも増えたのだという。さらに「手で字を書くのが面倒」という人も42%で、こちらも10年前より増えている。

パソコンや携帯の生活への浸透と、読んだり書いたりする力の関係については、この欄でもよく、「このままで大丈夫だろうか」「機械なしには文字が書けないようにならないか」と、懸念を示してきた。この調査結果を見る限り、残念ながら私の懸念はどうやら杞憂（きゆう）ではないようだ。

実際、私の「文字書けない度」はどんどん進行しており、最近ではお借りした資料を返却する際に一筆箋にお礼の言葉をほんの数行書くためにも、漢字を調べなくてはならないほどだ。書く機会の少ない文字から忘れていくせいかな、先日は「愛」という文字が一瞬書けず、切ない思いをした。さらに、「書く」作業をしていない手は、文字を書くことに慣れておらず、もともと汚かった文字が、謎の象形文字のようになってしまっている。これでは人に考えや思いを伝える文字としての役割は果たしていないも同然だ。やはり、「打つ」だけではなく、「書く」作業をしないことは、あまりよろしくないことなのではないか。

アメリカに留学していた当時、こんな体験をしたことがある。課題の量のあまりの多さに、脳が疲れ果て、どう頑張っても一行もレポートが書けない夜があった。そんな時、もらったアドバイスの一つが「何でもいいから手を動かして、書け」というもの。理由は、「**頭と手はつながっているのだから、手が動き出せば頭も動き始める**」というものだった。

半信半疑ではあったが、レポートを翌日までに完成させないと課目を落としてしまうわけだから、とりあえず、ノートに走り書きを試してみた。レポートの下書きというにはあまりにお粗末な断片的な考えや、気になった言葉などをぼつぼつと書いていっただけだ。そうしたら不思議なことに、アイデアが降りてきた。さっきまであんなに「何も書けない」状態だったのに、レポートの骨格がぼんやりと見え、そこからは比較的スムーズにレポートを完成させることが出来たのである。つくづく、物理的に「書く」行為をすることは大事なのだなあと思ったことを忘れられない。

あの時の経験があるから余計に、「手を動かして文字を書くこと」の重要さを思わずにいられないのである。「手で書けなくても、便利な道具さえあれば書けるんだからいいじゃないか」という考え方もあるかもしれないが、私はやはりその考えにくみすることはできない。機械がなければ書けないのであれば、それは機械を使っているというよりも、機械の奴隷にされていることに近いと思うからだ。

同じ調査によると、「**手で字を書くこと**」や「**直接人と会って話すこと**」を面倒くさく感じるようになった人も増えたそう。機械を使いこなして便利な生活を送っているはずが、いつの間にか、人としてはどんどん劣化する方向に追いやられていないか。特撮ファンとしては、背景で地球侵略を狙う悪の組織あたりがほくそ笑んでいるのではないかと、ちょっと空恐ろしい気持ちにすらなってしまうのであった。

(2012年9月21日 読売新聞より)

便利さの反動で漢字が書けなくなっているのは仕方がないのかもしれない。それよりも問題なのは語彙力の無さや字を丁寧に書こうとしない、楽をしようとする事だ。当然、語彙力の無さは読解力の無さにつながり、それではテストの問題の意味を理解することは難しい。そして読解力の低さ、日本語能力の欠如は、自分や考えや気持ちを表現できなかつたり、人の気持ちや考えを理解できないことにつながる。作文を書くことが苦手な生徒が多いのはこのせいだろう。

当然のことながらコミュニケーションだってうまくいくはずがない。まず、はじめに言葉が浮かび、それを文字にするのである。メールでは会話にはならない。

漢字に限らず覚えるためには、とにかく書くことが必要だ。携帯やスマホで漢字を調べるなどでの外だ。少なくとも小中学生のうちは辞書を使って調べるのがとても大切だ。過去に携帯やスマホを持っていた生徒で成績の良かった生徒はいない。特に中2、中3年で成績が落ちてくる。集中できないからだ。百害あって一利なしとはこのことだ。

塾では、夏休みから継続して中1から中3まで、語彙力をつけるための同じ宿題を出している。それを見てもきちんとできている生徒は国語力があり、5教科の成績も良い傾向にある。そして毎年2回実施している漢字検定にも積極的に取り組む生徒は成績も向上する。社会人となったほとんどの卒業生が言っている。「何よりも漢字をやっていた良かった」である。

大げさに言えば、漢字力、日本語力は、「生きる力」の大きな要素となるはずだ。今ではなく将来のために学ばなければならないことを忘れないでほしい。

## 「塾の歴史50年誌出版記念」

に加した育英塾 岸部塾長のブログから抜粋

\*\*\*\*\*

過日、塾が生まれて100年、塾団体が生まれて50年を記録した記念誌の発行記念の行事が東京であった。

総勢300人ほどの塾関係者、私立中・高校関係者、出版関係者などが集まった。もともとは塾をやっていた政治家も二人参加して教育に対する思いを熱く語った。

「教育は福祉ではない。教育は投資だ」と淡々と、しかし、熱く語ったのは東京の東京女学館高校の校長先生だった。

彼の前に、民主党文教族の参議院議員が民主党の教育政策を語った。それは授業料無償化を高校で行い、しかもそれを私立校にまで広げたということ力を強く、しかも、手柄のように話していた。

それに対してなのかなどうかは判断できないが、その後に上記の女学館高校の校長先生から「教育は福祉ではない。教育は投資だ」との言葉があった。私立校の経営者であるから、私立校に対する無償化はむしろ歓迎すべきところのはずなのだがそういう言葉である。

「無償化は考え直せ。福祉のようにしてしまうと教育は間違いなく減じる。」彼はこう言った。

国の将来を担うのが教育の力・役割と考えたとき、そして、「がり勉」などという言葉に代表されるように、勉強することが悪であるかのような論評がされることもある中で、福祉のような考え方で良いのかと、彼の話聞いていて自分が今まで何か胸につかえていたことはこれだったのかとしみじみ感じた。

『分数が出来ない大学生』『小数ができない大学生』の著者、西村和雄先生の話もすごく納得できた。

この西村先生は京都大学大学院で教える経済学博士で、数年来の大学生の学力低下を非常に憂えている。

数年前、やはり塾の全国研修会でお話を聞く機会があったが、上記の二冊の著作も合わせてその時にも「すごい」と思ったが、今回は限られた時間の中で、理系教育が非常にまずい状態に陥っているということ話を話していた。

その中で**高専が非常にうまく学生を養成しているという話があった。その理由は「指導要領」なるものに縛られないカリキュラムを編成できるため、自由に教育が出来るからということだった。**

長らく、私立の中・高校が公立の下にあったが、週休5日制になってから土曜日も積極的に授業や補習を行った結果、東京の私立中・高校は凄まじい成果を上げている。そのことから「公的なものにしばられない教育」が成果を上げているということ話を話していた。

最後に、女学館高校の校長先生の言葉を紹介する。「子供達は未来への留学生である」。

全文は岸部塾長のブログ「塾長の熱いブログ」で。

ステップゼミナールでも数年前から、理系（工業系）を目標とする生徒には積極的に高専を勧めるようにしてきた。理由は2つある。一つは**社会が理系の重要性を再認識したこと**。もともと日本は工業国であり、加工貿易国で高い技術力があつたが、一時期それを放棄し実態のない経済におぼれた。結果、アジアの台頭に苦戦を強いられることになってしまった。もとに戻るの**は当然のことだ**。

二つ目は、就職である。この就職難の中で釧路高専の就職率は毎年ほぼ100%で就職の心配がない。実際、今年、情報工学科を卒業した石田君も来年電気工学科を卒業する富樫君もゴールデンウィーク明けには一流企業に就職が決まっている。過去の卒業生もほとんどが一流企業に就職し全国で仕事をしている。

5年間は長いかもしれないし、公立高校のようにとりあえず学校に行っていれば卒業させてくれるわけでもない。勉強も大変、通学も大変だがその分の見返りはとても大きい。将来の自分への投資なのだ。

釧路高専はずっと、他の三つの高専に比べて倍率が低い。中学校ではなぜか積極的に高専を勧めることはない。地元を高専があつて倍率が低い、こんなチャンスを活かさない手はない。さらに、来年からは、高専と公立高校の両方を受験できることになるので受験者は多くなるはずだ。

文系が不利な時代（とは言っても成績が良くて人間性に優れていれば関係ない）、就職を考えると工業系、医療系、公務員系の希望が多くなる。その分競争は激しくなるが、明確な目標を持って今から努力すれば誰にも可能なことである。

今やっておかなければ近い将来必ず後悔することになる。

※ お知らせ 来年度（平成25年）から都合によりしばらくの間、富原中学校吹奏楽部の生徒の募集を停止します。